

単元名:つながる ひろがる わたしとせかい

氏名:真島 千明	学校名:たつの市立半田小学校	
担当教科:全教科	実践教科:国語科、道徳科、外国語活動、特別活動	
時間数:10時間	対象学年:1年	人数:14人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

世界について興味・関心を広げ、日本との共通点・相違点に気づかせ、自分たちの生活と世界とのつながりを考えられるようになる。さらに、異文化に触れ合うことで、自分たちの文化との違いや他国の文化のよさを見つけ、認められるような多文化理解の感覚を育む。

【2】
単元の評価
規準

(ア) 知識・技能

世界には多様な文化背景があることを理解している。

(イ) 思考・判断・表現

日本と世界を比較し、共通点や相違点に気づき、良さや感じたことを表現している。

(ウ) 主体的に学習に
取り組む態度

世界の人々や文化、歴史などの多様性を尊重しようとしている。

【3】
単元設定の
理由

【児童観】

本校は兵庫県の都市部から離れた南西部に位置し、外国の文化に触れたり外国籍の友だちや人に出会ったりする経験が少ない。そのため、本学級では日本以外の国について知らない児童が大半である。しかし、月に1・2回程ALTの先生と外国語を学習する時間があり、児童は積極的に取り組んでいる。外国語の授業をきっかけに、世界にはいろいろな国があることを知り、日本との違いを少しずつ理解し始めたように感じる。

【教材観】

本単元では、世界に視野を広げるために異文化に触れ合う機会を設けることで、他国の文化の面白さや楽しさを体感させたいと考えた。「外国」の1つとして「ペルー」を通し、子どもたちの世界に関する興味や関心を高めたい。日本とペルーの違いだけでなく、良いなと思ったことや素敵だと感じたことを友だちと共有し、世界について興味をもつきっかけとしたい。また、外国についての知識が浅いため、様々な国や遊びの本を学級文庫に整備した。

【指導観】

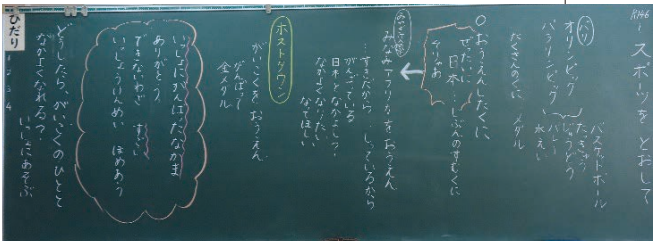
児童から事前に集約していた「ペルーに行って調べてきてほしいこと」をもとに、授業者が実際に撮影したペルーの街並みや食べ物などの写真を提示し、日本とペルーの相違点を見つけさせる。相違点ばかりではなく、似ているところにも着目させ、日本とペルーのつながりについても気づかせる。さらに、日本とペルーが150年も前からつながりがあるという歴史的な背景にも触れ、現在も日系人の方がペルーで活躍されていることやペルーで日本の文化が大切にされていることなどについても伝えていきたい。

【設定時に想定された児童の変容】

子どもたちは様々な国に興味をもっていくうちに、日本では当たり前だとされることが外国では当たり前でないということに気づき、驚くはずだ。そんな場面に出会ったときには、互いの文化や習慣を認め、尊重しようとする言動が少しずつ表れてくるだろう。子どもたちが、自分と世界のつながりを実感し、他国の文化に親しもうとする姿が期待される。さらに、外国につながる人から経験談を聞くことで、自分事として考え、自分から様々な国や立場の人に関わろうとすることができるようになる。

【4】展開計画(全10時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 国語科	「みんなにしらせよう ～なつやすみのおもいで～」 ・夏休みの思い出を伝え合う中で、日本のよさを共有したり、ペルーに興味をもたせたりする。	①夏休みの思い出発表会を開く。 ②ペルーについて紹介する。 ・地図 ・国旗 ・衣食住 ・スーパー ・小学校の様子 ・ホームビジット先 など ③授業を行ったことやみんなが作ったプレゼントを喜んでくれたことなどを伝える。	・絵日記 ・ペルーの写真  ・ペルーからのお土産
2 道徳科	「にっぽんのおかし」 ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・日本のお菓子のもつよさや工夫を知ること、我が国の伝統や文化を大切にしようとする心情を育てる。	①日本のお菓子がもつきれいさ、季節感、行事との関係などのよさについて考える。 ②日本に昔から伝わるもののよさについて関心を高める。 ③日本の伝統行事・文化に関心をもたせる。 ④昔遊びを通して、古くから受け継がれてきた伝統や文化のよさを見つけていこうとする気持ちを高める。	・道徳教材 「にっぽんのおかし」 ・四季折々の行事や風習、遊びなどの写真 ・たつのカルタ
3 道徳科	「せかいとであう ～いろいろなくにやちいきをしろう～」 ・国際理解 ・世界には様々な国があり、言語や文化、習慣の違いに気づくことができる。	①世界地図を見せ、世界にはたくさんの国や地域があることを理解させる。 ②「ワールドマッチングゲーム」を行う。 ・日本を例に、一緒に考える。 ・2人組になり、国カードと同じ国のことが書かれたカードを集める。 ・集めたカードを紹介しながら、初めて知ったことや興味をもったことなども発表させる。 ③国によって服装や食べ物、家など様々な違いがあることを考えさせる。 ④世界の国々や地域に興味をもたせる。 ・世界には、他にも国や地域があり、文化や伝統があることを伝える。	・世界地図 ・人権教育資料『ほほえみ』(令和4年版) ・国名や国の紹介カード (日本・カナダ・韓国・アメリカ・トルコ・オランダ・ベトナム・インド) ・道徳教材 「がっこうへいくとき」 「せかいのおはよう」 ・ワークシート

4 国語科	「せかいのおはなしをしよう」	・図書館司書の方を招き、日本や世界の絵本の読み聞かせをしていただく。絵本を通して世界に興味をもたせる。	・絵本 「かもさんおとおり」 「ひやくにんのおとうさん」
5 外国語活動	「ALTデイビッド先生からアメリカのことをおしえてもらおう」 ・国際理解 ・デイビッド先生からアメリカの文化や習慣について教えてもらうことで、世界に興味をもち、自分たちの生活との共通点や相違点を見つけることができる。 ・日本のことをもっと知ってもらおうとする意欲をもたせる。	①前時の学習をもとに、「デイビッド先生にインタビューしよう」と題し、聞きたいことを事前にワークシートに書き出しておく。 ②インタビューを通して、デイビッド先生からアメリカの伝統的な文化や習慣、日本の好きなところ、いいなと思うところなどを教えてもらう。 ③初めて知ったことや興味をもったことを発表し、日本との共通点や相違点を考える。	・スライド ・ワークシート  
6 道徳科	「となりのジェニーくん」 ・国際理解、国際親善 ・他国の人々に親しみ、進んで関わり、よりよい関係を築こうとする心情を育てる。 ・言葉の通じない他国の人と接したとき、どんな思いになるのか、言葉の壁を乗り越え、どんなふうに関わり合えるのかを実際に体験する。	①他国から来た言葉の通じない相手に対して、どう接してよいのか戸惑っている主人公に共感させる。他国の人と進んで関わりがもてない理由や思いを考えさせる。 ②これまでジェニー君に声をかけられなかった主人公はどのような思いで声をかけたのかを考えさせる。ALTデイビッド先生にジェニー君役を演じてもらい、言葉が通じない相手にどのように声をかけるのか役割演技を行い、仲良くなる様子を再現しながら考えさせる。また、どのような声かけがあると嬉しいのかデイビッド先生から話を聞く。 ③言葉や文化のちがいを乗り越えて、よりよい関係を築いていくために大切なことを考えさせる。言葉が通じなくても心は通じ合うことができるということを学ぶ。 ④授業者がペルーで出会った浜田ケイン先生から聞いた話を伝える。子どもたちの話を伝え、浜田先生の気持ちに寄り添い、自分たちはどう考え、行動するのがよいか自分事として考えるきっかけとする。	・みんなのどうとく1ねん学研 「となりのジェニーちゃん」改作 ・ワークシート  
7 特別活動(本時)	「これは日本かな?がいこくかな?」 ・日本とペルーのつながりを見つける。	①2枚の写真を比較し、どちらが日本・外国(ペルー)なのかをクイズ形式で考えさせる。 ・町の様子(家・道路・車) ・スーパー・マーケット(店内・野菜や果物、肉) ・食事 ・学校の様子(授業中・給食・遊び・鞆・運動場・避難訓練…) ・人	・スライド ・日本とペルーを比較したワークシート

	・兵庫県が配置する「子ども多文化共生サポーター」であり在日ペルー人のリッキー先生の話聞き、物理的に距離は遠いペルーだが、日本とペルーは身近な存在であることに気づく。	②各2枚の写真を比較し、日本とペルーの文化について共通点や相違点を考える。 ③ペルーについて、リッキー先生に詳しく説明をしてもらう。写真以外にもリッキー先生を感じる日本とペルーの共通点や相違点、両国の素敵だと思うことについて話を聞く。	
8 学活	「ペルーについてもっとしろう」 ・ペルーの伝統的な文化(音楽・遊び・ダンス)などを知り、実際に体験することを通して、ペルーという国に親しみをもつ。	①ペルーの民族楽器を演奏したり、伝統的な遊びを体験したりする。 ・楽器 :サンポーニャ、オカリナ、チャクチャ、ケーナ、レインスティック ・遊び :ヤセス ・ダンス:ディアブラーダ ②ペルーには日本にあるものとよく似たものがあることに気づく。  	・ペルーの楽器や遊び ・ダンス動画(ホセ・ガルベス校から) ・ワークシート 
9 道徳科	「スポーツをとおして」 ・国際理解、国際親善 ・他国の人々と仲良くなれることに喜びや関心を持ち、他国の人々に親しみをもって仲良くしようとする意欲を高める。	①オリンピックのホストタウンの人たちの気持ちを考えることを通して、世界とつながることの大切さや素晴らしさに気づかせる。 ②どうしたら他国の人と仲良くなれるのかをワークシートに記述させ、他国の人と仲良くなる方法を考える。 ③他国の人々に親しみをもって仲良くしようとする意欲を高める。 ④オリンピックによって国や人々がつながっていることを理解する。国による違いはあるが、その国について理解し応援することで、仲良くなれることに気づかせる。 	・道徳教材 「スポーツをとおして」 ・スライド ・オリンピックとパラリンピックの映像や写真 ・ワークシート
10 学活	「がいこくへいってみよう」 ・世界に興味を持ち、日本とどのようなつながりがあるのかを考える。	①行ってみたい国や自分の興味のある事柄に関する国など、本やインターネットで調べる。 ②日本とどのようなつながりがあるのかを考えさせる。 ③調べた国をみんなでお話し合い、世界地図をつくる。 	・世界地図 ・タブレット ・ワークシート 

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (3分)	1.本時の課題を確かめる。	○学習活動の流れを提示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。	
展開 (32分)	ペルーをくわしくしよう 2.2枚の写真を比較し、どちらが日本・外国(ペルー)なのかをクイズ形式で考えさせる。 ①町の様子(家・道路・車・本屋) ②スーパー・市場(店内・野菜や果物、肉) ③食事 ④学校の様子(授業中・給食・遊び・靴・運動場・避難訓練…) ⑤人 3.リッキー先生に詳しく説明をしてもらう。 4.一番心に残ったことを発表する。	○日本とペルーの写真を比較したワークシートを配付し、どちらが日本か丸をつけさせる。 ○似ているところには青色で丸、違うところには赤色で丸をつけさせ、共通点と相違点があることに気づかせる。 ○ペアで話し合うことで、多様な意見を出しやすいようにする。 ○写真以外にも日本とペルーの共通点や相違点、素敵だと思うことについて話し、ペルーが身近な存在であることを感じさせる。 ○多文化共生サポーターとしての立場から、違う国の人への関わり方を聞き、互いに安心して生活するために自分たちにできることを考えさせる。 ○国や地域ごとに、文化や習慣、特色などがあることを理解し、互いに尊重し合うことの大切さに気づかせる。	・ワークシート
まとめ (10分)	5.ふり返しを行う。	○ワークシートに書き出しを記入しておき、書く視点を焦点化させる。	・ワークシート

【授業実践の様子】

①2枚の写真を比較し、どちらが日本か外国かを話し合い、共通点や相違点を見つけ、伝え合っている様子。



②見つけたことを全体で交流している様子。



③リッキー先生によるペルーの紹介を聞いている様子。



④授業終末 ふり返し

ペルーの人は、日本と違って、
スーパーで野菜や果物を売っている。
学校で給食を食べる。
学校で遊ぶ。
学校で避難訓練をする。

ペルーの人は、日本と違って、
スーパーで野菜や果物を売っている。
学校で給食を食べる。
学校で遊ぶ。
学校で避難訓練をする。

ペルーの人は、日本と違って、
スーパーで野菜や果物を売っている。
学校で給食を食べる。
学校で遊ぶ。
学校で避難訓練をする。

ペルーの人は、日本と違って、
スーパーで野菜や果物を売っている。
学校で給食を食べる。
学校で遊ぶ。
学校で避難訓練をする。

ペルーの人は、日本と違って、
スーパーで野菜や果物を売っている。
学校で給食を食べる。
学校で遊ぶ。
学校で避難訓練をする。

【6】本時の振り返り

2枚の写真を見てどちらが日本なのかを考えると、児童から、「こっちが日本。」と言い合う声がよく聞こえてきた。写真の細部までよく見比べ、たくさんのことに気づき、交流することができた。実際に授業者が撮影したペルーの様子は、本屋やスーパーなどと児童にとって身近なものであったため考えやすかったと感じるが、時間を要したため、写真を厳選する必要があったと感じる。

リッキー先生の話では、ペルーは3つの地域に分けられ、地域ごとに特徴があることを教えていただき、児童はとても興味をもって話を聞いたり質問をしたりしていた。また、多文化共生サポーターとしての立場から、外国にルーツのある児童の困り感や関わり方について教えていただいた。デイビッド先生から聞いた話と重なる部分があり、言葉が通じなくても、優しく声をかけてもらえると嬉しい気持ちになるということを知ることができた。児童は最後まで真剣に話を聞いており、単元を通しての学びをつなげながらより考えを深めていくことができたのではないかと考える。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

夏休み前(ペルー訪問前)

○ペルーの子どもたちへ質問はありますか？

→質問:①好きな遊び・スポーツ・食べ物・お菓子・動物・漫画は？

②どんな勉強をしているの？ ③どんな習い事をしているの？

○日本らしいプレゼントを渡したいと思うのですが、何がいいと思いますか？

→プレゼント

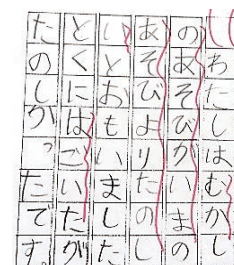
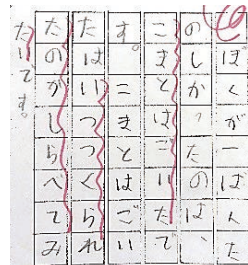
折り紙…みんな折り紙が好きだから、折り紙をあげたい。

うちわ…朝顔のこすり染めをしたから貼りたい。

扇子…折り紙をちぎって貼り合わせて、

日本とペルーの国旗を作りたい。

学校の様子を伝えたい。



第1時

○みんなの作ったプレゼント、とても喜んでくれたよ。

→ペルーのことを知りたいと思う児童が出てきた。

第2時～6時

①まずは日本の伝統文化を知る。

→日本のお菓子や昔遊びを知り、日本の伝統や文化のよさに気づき、親しみをもつことができた。

②③世界にはどんな国があり、どんな文化があるのかを知る。

国によって食べ物や服装などが違うことを知る。

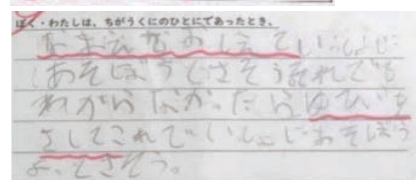
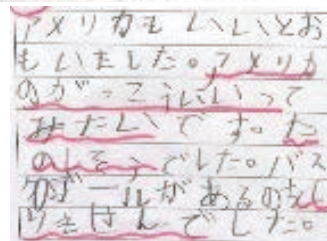
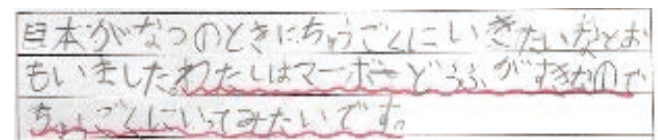
→もっといろんな国のことを知りたい。

④ALTデイビッド先生の住むアメリカはどんな国なのかを知る。

→アメリカの学校と日本の学校の共通点や相違点に気づく。

⑤言葉が通じなくても心は通じることを学ぶ。

→言葉が通じなくても、諦めずに一生懸命伝えようとすると、相手に気持ちが伝わるということを知る。

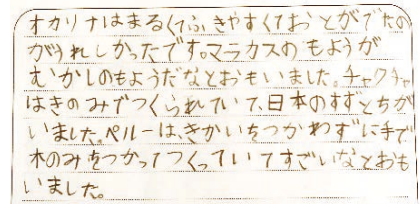
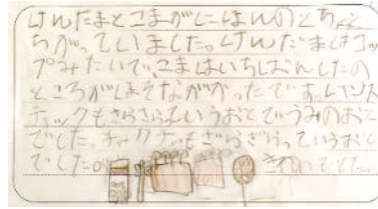
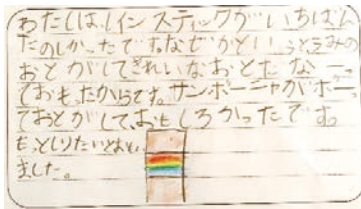


第7時(本時)

第8時～10時

①ペルーの民族楽器や遊び・ダンスなどを体験する。

→「ペルーにはこんな楽しい・素敵な文化があるんだ。」「日本に似ているものもあって面白い。」「ディアブラーダっていうダンス、とても楽しい。私も衣装を着て踊りたい。」



②スポーツを通し、国や人々のつながりを知る。

→「オリンピックで応援していた国は?」と聞くと、全員が「日本。」と答えた。しかし、学習を深めていく中で、「これからは日本以外に、ペルーやアメリカも応援したいな。」などと発言をする児童が出てきた。様々な国のスポーツに興味をもち、応援しようとする気持ちが高まった。

③興味のある国をインターネットや本で調べる。

→「せかいとであう」で出てきた国や好きな歌手、選手がいる国など、児童は積極的に調べていた。調べたものを見せ合ったり、「この食べ物、日本の物に似ている。」と発言したりする様子が見られた。



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

単元を通して、小学校低学年であるからこそ様々なことに興味関心をもち、先入観がない状態で学習に取り組むことができたのではないかと考える。学習やニュースで取り上げられた国に興味をもち、世界地図でその国の位置を探す児童が増えた。また学習の中で、「〇〇(国名)ではどうなんだろう?」と日本と比較し、他国のことに興味をもつ発言も出てきた。近隣の国名を少し知っているだけの児童だったが、世界にも視野を広げる様子が見られるようになった。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

- ・日本の文化をよく知らない児童が多く、外国の文化について知っている児童はほとんどいない。
- ・外国とは、テレビで取り上げられている国やアメリカ、韓国、中国というイメージをもっていた。
- ・世界に興味をもつ児童はわずかであった。

(授業後)

- ・日本には、四季折々の伝統的な楽しみがあることを知った。昔の遊びが今も楽しまれていることや、今の遊びとつながりがあるということに興味をもった。
- ・日本との共通点や相違点、少し似ているが少し違うところなど、たくさんの発見をしていた。
- ・世界にはたくさんの国や文化があることを知り、互いの素敵な部分を見つけることができた。
- ・車が好きな児童は、ペルーの写真の中に日本と似ている車や日本の会社の車があることに気づき、とても驚いていた。
- ・児童の多くが、「〇〇(国名)はどんな遊びをしているのだろうか?」「〇〇(国名)にも似ている楽器があるのかな?」「〇〇(国名)の服装、とってもかわいい。着てみたい。」「もっと知りたい。行ってみたい。ご飯を食べてみたい。」などといった世界に興味をもった感想を述べていた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

- ・1年生に開発途上国や日本とペルーの歴史、日系社会について伝えるには、誤った理解をしないために、わかりやすい言葉で言い回しをしたり、どのように伝えたらよいのかを考えたりすることが大変難しかった。
- ・世界の事象に関心をもつようになった児童が増えたが、1年生は、目で見ただけで良し悪しを判断してしまうため、それぞれの背景を踏まえて理解する大切さを伝えること。

2. 改善点

- ・国際理解教育に関する既習事項はほとんどないため、絵本の読み聞かせの時間に外国の絵本を用意し、世界に興味をもつきっかけを作っておくこと。
- ・1時間の中で考えて交流するなどの活動が多かったため、1時間のゴールを明確にし、内容を厳選する必要がある。
- ・写真や楽器など具体物があるとより理解しやすいため、準備が必要である。

3. 成果が出た点

新聞やテレビ、SNSなどで取り上げられた世界情勢に関する内容に注目する児童が増えた。外国のことを身近に感じ、1つの物事でも、他の国はどうなのかと多様な視点で物事を考えられるようになってきたと感じる。日本とのつながりを知ること、様々な国と共生しているということを感じ、これからも日本と外国のつながりを感じて、多文化共生社会で生きていく力が少しでも身についたと感じる。外国語活動の時間は、今まで以上に積極的に取り組んだり、デイビッド先生に生活科で作成した秋のおもちゃを紹介して一緒に遊んだりする姿が見られた。自ら関わりをもとうとする児童が増えたように思う。



4. 備考

多文化共生社会を目指すためには、一部の情報のみでその国や人々に対する先入観にとられることなく、その国の暮らしや文化を知ることを通して様々な生活習慣などの正しい知識を理解していくことが必要である。したがって、外国にルーツのある児童の有無に関わらず、低学年から多文化共生の素地を養うことが大切だと考え、本実践を行った。また、多文化共生社会の実現のみならず、自分にとっては当たり前のことが他の人にとっては当たり前でないということに気づき、互いの違いを認め、尊重し合うことは、誰もが笑顔で暮らせる人権文化に満ちた社会を創っていくことにつながる。

添付資料:ワークシート

第7時(本時)

つながる ひろがる わたしとせかい

◎ これはにほんかな? がいこくかな? にほんだとおもうほうに○をしよう。

①いえ



()



()

②くるま



()

なまえ ()



()

③ほんや



()



()

④スーパー・いちば



()



()

⑤りょうり



()

⑥学校(じゅぎょう)



()

⑦きゅうしょく



()



()



⑧やすみじかん



()



()

⑨ひなんくんれん



()



()

◎ ふりかえり (にほんとのつながりをしてもらったこと)



わたし・ぼくがここにのこったことは、

添付資料:ワークシート

第10時

つながる ひろがる わたしとせかい

なまえ ()

がいこくへいってみよう

○ いってみたいくにをしらべよう！

(れい)

・食べ物 ・よくきく ・スポーツ ・学校

・きめきめよく ・あそび ・ダンス ・まつり など

世界地図

○ ふりかえり (にほんとにているところやちがうところ、ステキだなおもったところなど)

参考資料:「外国人の子供が日本の学校で」浜田ケイン(浜田ケインさんから頂いた資料)